２０２６年（令和８年）２月１日　日曜日

デーリー東北　８面　掲載

31日から始まった第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」冬季大会のフィギュア競技に、八戸市に拠点を置く八戸フィギュアスケーティングクラブ（ＦＳＣ）から６人が出場している。２年ぶりに成年、少年男女の全４カテゴリーへエントリー。選手たちは、日頃から共に練習に打ち込む仲間との絆を胸に、最高の演技と上位進出を誓い合っている。（小嶋嘉文）

煌めく 青森国スポ 2026

フィギュア　八戸ＦＳＣ６人出場

「最大限の演技を」

成年、少年男女 全４カテゴリーにエントリー

競い、支え合った絆胸に

「青森県ポーズ」を決め、国スポでの活躍を誓う八戸フィギュアスケーティングクラブの選手ら＝28日、八戸市

八戸ＦＳＣは2005年に創設。多くの選手を国スポや全日本ジュニア選手権など、全国規模の大会に毎年のように出場させるなど、東北を代表するクラブとして知られている。

今大会には、成年男子に尾形広田（八学大）、成年女子に聖前琴乃華（十大一高―東北福祉大）、少年男子に堀野伊織（十大一高）と田名部飛至也（八学光星高）、少年女子には工藤緒心（十大一高）と、大会直前のけがで欠場した藤原愛菜（八学光星高）に代わって蓮山愛碧歌（十大一高）がそれぞれ出場する。

大会に挑む選手のほとんどは、幼いころから八戸ＦＳＣに所属。長年にわたって互いに切磋琢磨しながら、高みを目指してきた間柄でもある。工藤は「地元開催の国スポに、仲間たちと出られるのはとても心強い」と笑み。「国スポは憧れの舞台だった。いい大会だったなと振り返られるよう、自分の最大限の演技を披露する」と意気込んだ。

聖前は、23年に八戸市などで開かれた特別国体にも出場しており、「いつもと違ったプレッシャーがあった。今回もいい緊張感を持って臨むことができている」と強調。「みんなで同じ大会に出るということで、国スポに向けて互いに声をかけ合ってきた。全員で地元の人に喜んでもらえるような演技を見せられれば」と力を込めた。

指導に当たる佐々木正徳代表は「個人競技ではあるが、一つのチームでもある。互いに支え合いながら、国スポでもそれぞれの最もいい演技を期待したい」とまな弟子たちを優しく見守っている。

デーリー東北新聞社提供